



第60回 風に関するシンポジウム



主催：気候影響・利用研究会

共催：大気環境学会，日本海洋学会，日本風工学会，日本建築学会（申請中），日本雪氷学会，
日本地理学会，日本農業気象学会，日本風力エネルギー学会，農業農村工学会

日時：平成30年12月1日（土） 13:00～17:30

場所：立正大学（品川キャンパス 4号館 425教室）

第69回気候影響・利用研究会（10:00～11:40：各発表は講演15分、質疑5分）

岩切友希（東京大学・院）：「熱帯大気海洋結合系変動に対する季節サイクルの役割」

宮本大輔（日本大学・院）：「2017年夏のオホーツク海高気圧についての総観気候学的解析」

平井史生（駒澤大学・非）：「2018年台風21号の水平構造についての考察」

浅野裕樹（筑波大学・院）：「まっぼり風に対するカルデラ地形の力学効果」

山田駿介（筑波大学・院）：「鈴鹿おろしのタイプ別の強風域の分布」

*「風のシンポジウム」参加者も、あるいは研究会のみでも御自由にご参加頂けます（無料）

第60回 風に関するシンポジウム

プログラム（敬称略、講演者のみ記載）：

13:00～13:05 開会の挨拶（山川修治 気候影響・利用研究会会長）

基調講演（講演35分、質疑5分）

13:05～13:45

宮本佳明（慶応大学）「台風における風：近年分かってきたこと」

一般講演（講演20分、質疑5分）

13:45～15:00

山内隆介（横浜国立大学・学）ほか：

「経路アンサンブルシミュレーションを用いた強風地域の検証」

辻 和希（横浜国立大学・院）ほか：

「経路アンサンブルシミュレーションを用いた高潮リスクの評価」

中里 廉（神戸大学・院）ほか：「WRFにより計算される洋上風速鉛直プロファイルの改善」

---<休憩>---

15:15～17:20

日下博幸（筑波大学・計算科学研究センター）：

「日本の南フェーン“神通おろし”の特徴とメカニズム」

佐藤亮吾（筑波大学・院）：「地上地衡風に着目した channeling 流の気候学的研究」

西 暁史（筑波大学・院）：「局地風「空っ風」の力学的・熱力学的形成メカニズム」

瀬戸芳一（首都大学東京）ほか：「関東南部における夏季の局地風系の交替時刻分布」

真木太一（九州大学名誉教授・日本学術会議連携会員・北海道大学農学研究院）：

「山岳の風と霧・雲の発達－南アルプス農鳥岳・白河内岳付近－」

17:20～17:30 討論・閉会（山川修治会長）

*終了後、会場内において交流会を予定しております。

Himawari-8 IR1 18092712JST Kochi Univ

